

第一銀行券

三十七年八月末百五十萬餘圓

韓貨ノ授受

同 九月末二百十七萬餘圓

京仁地方ニテハ或貨物ハ韓貨ヲ以テ賣買シ或貨物ハ月貨ヲ以テ賣買ス即チ韓人間及韓人對外國人ノ賣買ハ主トシテ韓貨ニヨリ本邦人間及本邦人對外國人(韓人ヲ除ク)並ニ歐米人間ノ賣買ハ專ラ日貨ヲ以テシ清國人間ノ賣買ハ日貨ト韓貨トヲ用ウルカ如シ釜山及木浦地方ノ如ク葉錢ノ流通スル所ニ於テハ韓人間ニアリテハ韓貨ヲ用ウルヲ普通ノ習慣トスルハ勿論日韓人間ノ取引モ總テ韓貨建ヲ以テ之ヲ行フ即チ本邦商人ハ輸出品ヲ韓人ヨリ購フニ葉錢ヲ以テシ輸入品ヲ韓人ニ賣ルニ其代價ヲ韓錢ニテ受取ルノ習慣ナリ左レハ本邦商人ハ商品ノ賣買ニヨリテ損益スルノ外葉錢打歩ニヨリテ二重ノ損益ヲ爲シツ、アリ即チ本邦商人ハ此ノ二重ノ損益ヲ計算シ始メテ眞ノ損益ヲ知ルナリ

京仁其他韓白銅貨流通ノ處ハ日貨建ニシテ日貨ヲ標準トシ日貨百圓ニ付韓貨二百元又ハ百八十元ト云ヒ葉錢流通地區ニテハ葉錢建ニシテ葉錢一千文即チ十八割ト云ヘハ一貫文ハ日貨一圓八十錢ヲ價スルト云フ意ナリ故ニ韓貨ノ安シ又高シト云フ意義反對ニナルナリ悉ク言ヘハ白銅、銅貨ノ場合ニ於テ日貨百圓ニ付二百元ナルトキハ安ク百八十元ナルトキハ高シト云フ然ルニ葉錢ノ時ハ之ト反對ニナリ十八割ハ十五割ヨリ高シト云フ即チ一ハ日貨ヲ建トシ他ハ韓貨ヲ建トスルニ因ルナリ

通貨ト物價ノ關係(白銅貨流通ノ場所ニ付之ヲ述フ)

韓國在留本邦商人ハ勿論諸外國人カ其輸入品ノ代金ヲ支拂フハ外國爲替ノ關係上何レモ日貨ヲ以テスルヨリ一般ニ輸入品ノ賣買ハ日貨ヲ標準トシテ定メサルヘカラス然ルニ輸入品ノ最大顧客タル韓人ニ向ツテハ韓貨ヲ以テ取引スル習慣ニシテ然カモ韓貨ノ流通價格ハ變動激甚ニシテ日貨ニ對スル比價ハ殆ント毎日變動スルカ故ニ輸入品ノ價格又隨フテ變動ヲ免カレ然レトモ若シ韓貨ニシテ騰貴スレハ輸入品ノ市價騰貴スレハ其呼價ニ下落ヲ生スルカ故ニ之レカ販賣上好都合ナレトモ一朝韓貨ノ暴落ニ際セハ忽チ輸入品ノ呼價ヲ暴騰セシメ之レカ販路ヲ防ケラル、ハ言フ俟タズ取引上以外ノ損失ヲ招クコト往々之レアリ以上ハ白銅貨ノ場合ナルモ葉錢建ノ場合モ亦之レニ同シ唯韓貨トノ比價反對ニナルノ相違アリ即チ韓貨ニシテ騰貴スレハ輸入品ノ呼價モ騰貴スルモ韓人ハ前日ヨリ少ナキ韓貨ヲ以テ同一物品ヲ購入シ得ヘク下落スル時ハ之ニ反シ輸入品ノ價格ハ韓人ニ取リテハ騰貴スルコト、ナル故販賣困難トナルナリ

輸出貿易ト韓貨ノ關係(白銅貨流通ノ場所ニ付之ヲ述フ) 翻テ輸出貿易ノ場合ヲ見ルニ韓貨ノ下落殊ニ其暴落スル毎ニ輸出貿易ニ意外ノ利益ヲ與フ今之ヲ例示セハ左ノ如シ

韓貨ニテ輸出品ヲ購入スル場合(同上)

輸出商人ハ輸出品ノ買入ヲ爲スニ普通韓貨ヲ用キ而シテ一般ニ日貨ヲ以テ韓貨ニ交換シ之ヲ以テ支

拂ヲ爲スモノトス故ニ例ヘハ日貨賣價ニ對シ韓貨二元ノ比較ヲ有スル時米千石ヲ二萬元ニテ買受クルノ約束ヲ爲サンニ其代金支拂ノ際ニ於テ韓貨ノ價格カ約束當時ト同一ナラムニハ別ニ豫算外ノ利益ヲ見サレトモ若シ此際日貨賣價ニ對シ韓貨二元十錢ニ下落スルトキハ二萬元ノ代金ヲ仕拂フニ日貨ニテ輸出品ヲ購入スル場合(同上)

輸出品ノ購入ハ普通韓貨ヲ以テスレトモ唯第一銀行ニ於テハ特ニ日貨ヲ以テ金地金ヲ購入シ居レリ該銀行ハ日貨ニテ買入値段ヲ一定シ韓貨ノ高低ニ拘ハラズ常ニ一定ノ價格ヲ以テ購入スルニヨリテ金地金賣込仲買タル韓人ハ韓貨ノ下落ヲ期シ賣込ヲ加減スルノ傾アリテ韓貨下落ノ際ハ進ンテ賣込ヲ爲シ騰貴ノ際ハ手控ヲ爲ス風アリ

如此面倒ナル韓貨ハ價格ノ變動甚シク殊ニ白銅貨ノ如キハ明治三十一年七月以來漸次低落シ昨年十月ニ至リ典當局ノ閉鎖、納税期ニ向ヒタルコト、鐵道ニ韓錢ヲ要スルコト多キコト、大豆ノ輸出期ニ向ヒタルコト等ノ原因ニヨリ多少騰貴シタルトモ是レ一時ノ現象ニ過キス大體ニ於テ大ニ下落セリ此原因ハ大要下ノ如シ

日貨ヲ以テ支拂ハルヘキ輸入品ノ輸入カ近年輸入超過トナレルコト

白銅貨ハ三十三年濫發セラレ又之ヲ私鑄スルモノアリ尙ホ同年ヨリ三十六年ニ亘リ密輸入アリタ

ル爲メ供給過多トナリタルコト

白銅貨ハ其信用薄弱トナリタルコト

白銅貨一百元ニ對スル日貨ノ交換價格(京城)

年次	最	低	最	高
三十二年		七〇、四〇		九七、〇〇
三十三年		七一、九〇		八六、二〇
三十四年		六四、八〇		七六、九〇
三十五年		五〇、八〇		六〇、六〇
三十六年		四〇、七〇		五八、七〇
三十七年	年自一月至九月	四三、五〇		六五、八〇

葉錢

近年白銅貨濫發ノ結果トシテ其流通區域ハ次第ニ擴大シ同時ニ葉錢ノ流通區域縮少シ又葉錢中良貨ナルモノハ漸次鑄潰サレタルコト等ノ爲メ其價格下落セリ尤モ此外ニ貿易關係、納税時期等ニヨリ時々多少ノ昂低アルハ勿論ナリ左ニ釜山ニ於ケル葉錢相場累年比較表ヲ掲ク

最高	三十二年	三十三年	三十四年	三十五年	三十六年	三十七年	最高
一五、三		一四、九	一五、二	一四、〇	一二、九	一三、七	

最低平均

一八、四	一八、四	一七、二	一五、五	一五、九	一九、一六
一六、七	一六、七	一六、四	一四、六	一四、三四	

韓國貨幣制度紊亂ニ伴フ弊害ハ上來述フル所ノ如シ然ルニ我政府ノ指導機宜ニ適シ本年一月十九日  
韓廷ハ貨幣整理ノ件ニ付左ノ勅令ヲ發セリ

勅令第二號 貨幣條例實施ニ關スル件

第一條 本國貨幣ノ價格ハ金ヲ基礎トシ本位貨ノ根據ヲ鞏固ニスルコト

第二條 前條ニ依リ光武五年勅令第四號ノ貨幣條例ハ本年六月一日ヨリ實施スルコト

勅令第三號 形體最目同一ノ貨幣ハ障礙ナク通用ノ件

第一條 光武五年二月十二日勅令第四號貨幣條例ヲ實施スルトキニハ同條例規定ノ貨幣ニ品位量

目及形體同一ノ貨幣ハ障礙ナク通用シ公私ノ授受使用ヲ許スコト

第二條 本令ハ貨幣實施ノ日ヨリ施行スルコト

尙ホ此外勅令第四號ヲ以テ貨幣交換ニ關スル件ヲ公布セリ其要旨ハ舊貨銀十兩ハ新貨金一圓ニ相當  
スルニ依リ政府ニ於テ便宜交換或ハ改鑄スルコト舊白銅貨ノ交換及改鑄ハ光武九年即チ本年七月  
一日ヨリ開始シ交換期限ハ滿一箇年以上トスルコト交換期限終了後ハ其通用ヲ禁止スルコト等ナ  
リ

以上勅令ニ依レハ韓國貨幣ハ全ク我ト同様ニシテ我通貨ハ同國到ル處ニ通用サルヘク來年八月九月以  
後ハ現存ノ白銅貨通用セサルコト明カナリ然レトモ葉錢ノ始末ニ付何等ノ規程ナキヲ視レハ同貨ハ  
本邦ニ於ケル如ク依然補助貨トシテ通用セシムルモノ、如シ  
參考ノ爲メ光武五年發布ノ貨幣條例ニ基ク貨幣ノ種類ヲ掲クルコト左ノ如シ（但シ本貨幣ハ條例發  
布後之ニ基ク貨幣ハ未タ市場ニ現ハレサリシナリ）

(甲) 金貨 (イ) 二十圓 我二十圓金貨ト同質同量ナリ

(ロ) 十圓 我十圓同上

(ハ) 五圓 我五圓同上

(乙) 銀貨 (イ) 半圓 我五十錢銀貨ト同質同量ナリ

(ロ) 二十錢 我二十錢同上

銀貨ハ十圓ヲ限リ法貨トシテ通用セシム

(丙) 銅貨 (イ) 五錢白銅貨 我五錢白銅貨ト同質同量ナリ

(ロ) 一錢赤銅貨 我一錢赤銅貨ト同質同量ナリ

白銅及赤銅貨幣ハ一圓迄ヲ限リテ法貨トシテ通用セシム

第三節 手形流通及爲替ノ狀況

一、手形流通ノ狀況

韓國居留地並ニ民間ノ慣用セル手形ハ左ノ如シ

第一商法上所定ノ手形(爲替手形、約束手形、小切手)

第二慣行上ノ手形(韓貨手形)

第一ノ手形ハ其使用効用ニ於テ我國ト異ナルナク爲替手形、小切手ハ殆ント居留地ニ限り流通ス約東手形中視ルヘキモノハ第一銀行ノ一覽拂手形ナリ本手形ハ紙幣ノ代用ヲ爲スモノニシテ拾圓、五圓、壹圓、五十錢、二十錢、十錢アリ此外時局ノ必要ヨリシテ日本政府ノ發行セル軍用手票アリ第二慣行上ノ手形ハ所謂韓貨手形ナリ韓貨ハ其形質粗大ニシテ計算ノ煩苛運搬ノ不便アルヲ以テ韓貨手形ノ流通甚々盛ナリ此種手形ハ韓人ニ對シ或ハ本邦人相互間又ハ韓人相互間ニ行ハル釜山、元山ニ於テハ韓錢手形ニシテ京城、仁川間ニ在リテハ白銅貨手形多シ白銅貨手形ハ流通高僅少ナルモ葉錢手形ノ流通ハ頗ル盛ナルモノニテ其様式ハ錢額預リ又ハ保管セル旨ノ表示、振出ノ年月日、振出人ノ商號又ハ氏名、名宛人ノ商號又ハ氏名等ヲ記載スルヲ例トス各商人カ韓錢手形ヲ發行スル場合ハ米穀其他ノ商品ヲ韓錢ニテ買入ル、トキ若クハ韓錢ニテ他ニ賣却スル場合ニ最も多ク現錢ノ拂渡ヲ爲ス代リニ手形ヲ發行スルナリ一旦發行サレタル手形ハ裏書若クハ名宛ノ書換ヲ爲スコトナク轉

々流通シ其所持人ハ他人宛ノモノト雖トモ取付ヲ行フコトヲ得ルノミナラス額面全部ノ入用ナキトキハ内若干ヲ取付クルコト自由ナリ又振出人カ所持人ヨリ取付ニ接シタルトキハ現錢ヲ以テ支拂ヲ爲サス他人ノ韓錢手形ヲ以テ支拂フコトヲ得此場合ヲ稱シテ「手形廻シ」ト云フ即チ手形振出人ハ別ニ現錢ニテ準備セサルモ他人ノ手形ヲ準備スレハ則チ支拂義務ヲ果シ得ルナリ此ノ如ク韓錢ノ手形ハ單ニ振出人ニ於テ便利トスルノミナラス所持人ト雖トモ其取引ニ際シテ現錢ノ支拂ヨリモ「手形廻シ」ノ支拂ヲ受クルヲ便利トスル場合少カラス商人ハ實際現錢ノ必要アル場合ノ外現錢ノ支拂ヲ望マサルノ風リ此ノ如ク韓錢手形ハ取引ノ媒介トシテ頗ル圓満ニ流通スルモノニテ時トシテ商人間ニ於テ日本貨貸借ノ場合ニ於テ一ノ擔保品トスルコトアリ釜山ノ如キハ韓錢手形ノ市場ニ存在高ハ約六萬貫文内外ニシテ日々ノ流通高ハ二萬貫文内外ナリト云フ尙ホ此手形面ノ金額ハ振出人ノ隨意ナレトモ最小額ニ貫文乃至十貫文ニシテ最大額ハ千貫文以上ニ達スルモノアリト云フ

二、爲替ノ狀況

韓國ニ於ケル爲替業ハ我銀行又ハ郵便局ニ於テ之ヲ取扱フカ如キ外ニ前ニ説明シタル客主又ハ旅團ニ於テ之ヲ取扱ヘトモ商取引上ニ要スルモノハ殆ント稀ニシテ彼等ノ取扱フ處ノモノハ重ニ中央政府ヘ地方官ヨリ上納スル租稅ナリトス其手續ハ地方官カ其上納金ヲ客主ニ托スルトキハ客主ハ其金ヲ以テ商品ヲ買入レ之ヲ京城ノ取引先ナル客主ニ送り其客主ヲシテ之ヲ賣拂ヒ其代金ヲ以テ中央政

府ニ納入セシムルモノナリ其他個人ニシテ送金ヲ爲サントスルトキハ特ニ人ヲ派シテ現送セシムルヨリ他ニ送金ノ方法ナシ

### 第十六章 韓國ノ度量衡

#### 韓國ノ度量衡

從來韓國ニ於テ使用セラル、度量衡器ノ種類ハ區々ニシテ一定セス全國各地概ネ其比準ヲ異ニシ而カモ其製作頗ル粗惡ニシテ信憑スヘカラス就中量器ハ各郡其形狀容量ヲ異ニシ其差異著シク殆ント歸一スル所ナシ然レトモ度量器ト衡器トハ其差違全ク製作ノ粗惡ニ基因スルモノニシテ準據スル所ハ一ニ京城慣用ノ度量衡ニアルカ如シ蓋シ韓國ノ度量衡ノ根原ハ清國ニアルモ各般ノ綱紀廢頽セル全國ニ於テハ度量衡器ノ如キ其基本明定セラレス其製造ハ人民ノ隨意ニ放任シ格段ノ取締ナキ爲メ製作粗雜ニ流レ今日ノ紊亂ヲ來セルニ外ナラス左ニ韓國ニ於テ從來襲用セル度量衡器ノ主ナルモノヲ述ヘン

#### 度制

現今韓國ニテ最モ普通ニ行ハル尺度ハ左ノ四種トス

周尺 營造尺(名木尺) 針尺 布帛尺

周尺ハ田地ノ丈量、里數等ヲ測ルニ用ユルモノニシテ其一尺ハ我約六寸四分ニシテ丈、尺、寸、分ノ名稱命位ハ我ト同シク十進法ナリ

營造尺ハ一名木尺ト云ヒ其一尺ハ我一尺一分ニ當リ丈、尺、寸、分ノ名稱命位アルコト我ニ同シ韓國ニ於テ建造物ノ廣サヲ表ハスニ此尺ニテ八尺平方ヲ一間ト云フ

針尺トハ自家裁縫尺ノ意ニシテ猶ホ我鯨尺ノ如シ其一尺ハ我一尺六寸六分ニ當リ丈、尺、寸、分ノ名稱命位アリ

布帛尺ハ元ト針尺ノ商家用ノモノナリ古ヘハ針尺ナルモノナク皆布帛尺ナリシガ商家ニ於テ布帛ヲ販賣スルトキ切り耗リノ生スルコトヲ防ク爲メ段々短クシタルモノ、如ク今日ハ我一尺六寸一分トナリ針尺ヨリ短キコト約五分ナリ布帛尺ニハ種類多ク木綿、麻布、絹布等各用途ニヨリ布帛尺ノ長サヲ異ニセル處アリ又同一種類ノ布帛尺ニシテ長短ノ差二三寸ナルコト珍シカラス

#### 量制

韓國ニ於テ最モ普通ニ用キラレ古キ歴史ヲ有スル榧ハ左ノ三種ナルカ如シ

食枰一名案枰 官枰 市枰

#### 食枰

韓國ノ度量衡

食枬大斛二十斗  
小斛十五斗 斗(十升) 升(合(升ノ十分ノ二)) 勺(升ノ百分ノ二) 升ハ我三合九勺ニ當ル  
食枬ハ最モ普通ノモノナリ食ハ食口ノ謂ニシテ壯丁ハ此枬ニテ一食七合老幼ハ三合平均一食五合當  
トス又一般民家ニテ穀類ヲ量ルカ故ニ一名家枬ト稱ス

官枬

官枬大斛二十斗  
小斛十五斗 斗(十升) 升(合(升ノ十分ノ二)) 勺(升ノ百分ノ二) 升ハ我三合六勺ニ當ル

此枬ハ素ト食枬ト同一ノモノナレトモ食枬ハ民家用ニシテ官枬ハ官家用ナリ其容量一斗ニ對シ三合  
ノ差アリ是納稅ノ時吏員ノ手數料ヲ見込タルモノナリト云フ即チ人民ヨリハ食枬ニテ收メシメ官家  
ヘハ官枬ニテ納ムルヲ以テ其差ハ收稅吏ノ所得トナルナリ甲午以後ハ租稅ハ金納トナリタルヲ以テ  
納稅ニハ不用トナレリ又此枬ノ食枬ト異ナル點ハ食枬ハ普通一石ト云フハ二十斗ナレトモ此枬ハ普  
通十五斗ヲ一石ト稱ス

市枬

市枬(石(四十升) 斗(十升) 升(合(升ノ十分ノ二)) 勺(升ノ百分ノ二)) 升ハ我一升三合五勺ニ當ル

市枬トハ市場ニ用キル枬ト云フ意ニシテ京城及其附近ノ市場ニ於テ多ク用キラル一石ハ四斗ニシテ  
我五斗四升ニ當リ官枬ノ十五斗ニ相當ス

衡制

衡ハ素ト本邦ト其沿革ヲ同フシ我ニ於テ文明、慶長ノ頃錢兩等ノ名稱ヲ廢シ爾來及貫ノ名稱、命  
位ヲ用キ居ル點ノミ異ナルカ如シ韓國ニ於テ一般ニ用キラル、モノハ唯木製桿秤ノミニシテ左記三  
種ハ其主ナルモノナリ

小稱(二名銀稱) 秤量一斤(斤十六兩) 兩(十錢) 錢(分(錢ノ十分ノ二)) 厘(錢ノ百分ノ二) 錢ハ我一匁ニ當ル

此桿秤ハ金銀、藥劑等ノ如キ貴重品ヲ秤ルモノナリ一斤ハ十六兩(百六十匁)即我一斤ナリ

中稱 秤量三十斤 斤以下右ニ同シ

此桿秤ハ線綿其他ヲ秤ルニ用キルモノナリ

大稱 秤量百斤 斤以下右ニ同シ

以上ノ三種ハ古ヨリ一般ニ行ハル、モノニシテ比較的精確ト稱スルモノナリ此他自家用ノモノ枚舉  
ニ違アラス何レモ自家製ニ係リ隨テ單ニ目分量ノ代リニ用キル粗製亂雜ノモノナリ

地積制

韓國ニテ土地ノ面積ヲ表示スル名稱ニ四種アリ頃、耕、落、結是ナリ

頃

此名稱ハ地積ヲ表示スルニハ最モ精確ナルニ關セス實際ニ用キラル、コトナク唯書籍上ニ用キラル  
、ノミ一頃ハ我一町四反五畝六歩ニシテ頃ノ百分ノ一ヲ畝ト云ヒ畝ノ百分ノ一ヲ步ト云フ周尺ノ六

尺平方ナリ

耕

是ハ牛一頭ノ耕作力ヨリ其廣サヲ表示スルモノニシテ現今民間一般ニ用キラル、名稱ナリ但シ火田ニノミ用キ水田ニハ之ヲ用キス一日耕二日耕ト日數ヲ冠ラセテ呼ヘリ素ヨリ牛ノ耕作力ヨリ割出シタルモノナレハ明確ノモノニアラサルコト論ヲ俟タス一日耕ハ約一頃ノ四分ノ一ニシテ我三反六畝九歩ナルモノ多キカ如シ

落

是ハ下シ種ノ量目ヨリ土地ノ廣サヲ表示スル名稱ニシテ水田、火田相通シテ之ヲ用ウ韓國ニテ地積ヲ言ヒ表ハス名稱中最モ普通ノモノナリ勿論幾許ノ種子ヲ下ス地面ハ何平方尺ノ廣サアリト精確ニ一定シアルニアラス唯目分量ニテ何斗落ナリト習慣法ヲ以テ定マリ居ルニ過キサレハ其面積シ精確ニ示スコト能ハス一斗落八十坪ニ足ラサルモノアリ或ハ百三十坪ニ餘マルモノアリ其平均ハ約我三畝十八歩餘ナリト云フ

結

是ハ稅率關係ノ名稱ナリ故ニ單ニ一結ト云ヘハ其地ヨリ納ムル租稅ヲ意味スルナリ一結ハ百負即百斗一負八十束即チ一斗一束八十把即チ一升一把ハ一合ニ相當ス故ニ一結ノ田ト云ヘハ租稅百斗ヲ納

ムル田地ヲ云フ而シテ其廣サハ其田地ノ等級ニヨリ等シカラス古典ニ據レハ一結田ノ廣サヲ左ノ如ク區分セリ

一等田	一結面積	二十二萬八千尺
二等田	同	二十六萬八千二百尺
三等田	同	三十二萬五千二百尺
四等田	同	四十一萬四千尺
五等田	同	五十七萬尺
六等田	同	九十一萬二千尺
平均田	同	四十萬二千九百尺我一町七反二畝二十七步

即チ六等ニ分チ之ヲ丈量スル田量尺ヲ區別シ一等田量尺ハ四尺七寸七分五厘、二等田量尺ハ五尺一寸七分九厘、三等田量尺ハ五尺七寸三厘、四等田量尺ハ六尺四寸三分四厘、五等田量尺ハ七尺五寸五分六等田量尺ハ九尺五寸五分トシ各田量尺一萬尺チ一結ノ面積トセリ此法ハ甚ク明確ナルカ如キモ實際ハ然ラス一例ヲ舉クレハ茲ニ一結田ノ地主アリテ此地所ヲ賣却スルニ當リ其面積ノ七分ノ一ヲ一結ト稱シテ他ニ渡シ自己ハ三分ノ無稅地ヲ所有スルコトアリ此ノ如キコト轉々數度ニ及ヒ今ハ一結田ト云フモ唯名ノミニシテ實際ニ於テハ唯僅カニ我一町ニ足ラサルモノ又ハ二町三町ニ出ツルモ

ノ等其不均一ナルコト想像外ナリト云フ

韓國度量衡制ノ大要上記ノ如シ而シテ民間ニ現存スル度量衡器ノ種類、長短、大小ヲ異ニスルコトハ前ニ述ヘタルカ今其實例ヲ舉ンニ布帛尺ハ京城附近ニテハ我約一尺六寸八分五厘ナルモ釜山ニ於テハ一尺七寸ナリ平壤附近ニテハ木綿、金巾、麻布等ニ用ウルモノハ我約一尺八寸細類ニ用ウルモノ一尺六寸七分細類ニ用ウルモノ一尺五寸五分ナリ量器ハ長方形ナルモノアリ正方形上狹底廣ノアリ又長方形上狹底廣ノモノアリ其容量ハ一升枬即チ小枬ト稱スルモノニハ最小我三合四勺ヨリ最大一升四合四勺迄種々アリ一斗枬即大斗ト稱スルモノニハ最小二升七八合ヨリ最大五升六合七勺迄種々アリ尙ホ前ニ述ヘタル種類ノ外地方ニヨリ秋收枬、鹽枬、麥枬ト稱スルモノアリテ頗ル混亂ヲ極ム

韓國ノ度量衡ノ紊亂甚シキコト上來述フル所ノ如シ是全ク度量衡ノ基本明定セラレス原器ノ具備セラレサルニ由ル近時韓國ノ通商貿易ハ日益々頻繁ナラントスルノ時ニ當リ斯ノ如ク不完全ナル度量衡ヲ費用セハ貿易ノ發達ヲ阻碍スルコト尠カラズ是ヲ以テ明治三十五年韓國政府ハ邦人井上宜文其他ノ注意ニ依リ同年七月宮内府所屬トシテ平武院ナルモノヲ設置シ度量衡ノ製造檢定ニ關スル一切ノ事務ヲ專管セシムルコト、シ總裁ノ下ニ管理ナルモノヲ置キ前記井上ヲシテ之ニ當ラシメ我邦ノ制度ニ則リ新ニ度量衡規則ヲ制定シ三十六年七月一日ヲ期シ施行スルコトトシタルモ爾來規則ノ一部ヲ改正シタルコト三回今仍ホ實施ニ至ラサルモ最後即チ本年三月ノ改正ニヨリ彼我通商貿易上

重要ナル關係ヲ有スル量器ノ基本單位ヲ全然我ニ一致スルコトトシ本年十一月ヨリ愈之ヲ實施スル筈ナリ依テ左ニ韓國度量衡規則ノ要點ヲ舉クヘシ若シ夫レ其詳細ニ至リテハ本年三月二十九日發布韓國官報ヲ参照スルコトヲ要ス

度量衡規則摘要

第一條 度量ノ基本ハ尺トシ衡ノ基本ハ兩トスル事

第二條 度量ノ原器ハ白金製ノ棒ニシテ其棒面ニ記スル所ノ線間カ攝氏溫度〇、一五度ノ時ニ其長

三十三分ノ十ヲ尺トスル事

第三條 衡ノ原器ハ白金製ノ分銅ニシテ其質量四百分ノ十五ヲ兩トスル事

第四條 度量衡ノ名稱命位ハ左ノ如ク定ムル事

度

毫米ノ一萬分ノ一 厘尺ノ一千分ノ一 分尺ノ一百分ノ一 寸尺ノ十分ノ一 尺 丈十尺 里二千三百八十六尺

量

勺升ノ一百分ノ一 合升ノ十分ノ一 升六萬四千八百二十七立方分 斗十升 石一百升

衡

毫兩ノ一萬分ノ一 釐兩ノ一千分ノ一 分兩ノ一百分ノ一 錢兩ノ十分ノ一 兩 斤十六兩

韓國ノ度量衡



第五條 測地ニハ從來慣用セシ周尺ヲ並用ス其長サハ尺ノ百分ノ六十六トシ名稱命位ハ左ノ如ク定ムル事

測地度距離

釐周尺二分ノ一 分周尺十分ノ一 周尺尺ノ百分ノ六十六 步六周尺 間十周尺 鏈二百周尺十間  
里二千一百周尺二十二 鏈即三百五十步 息六萬三千周尺三十里

地積

勺把ノ百分ノ一 合把ノ千分ノ一 把五周尺平方 束十把 負一百把十束 結一萬把二百負

第六條 布帛ヲ度ル時ニハ從來慣用セシ布帛尺ヲ並用ス其長サハ一尺七寸トシ名稱命位ハ左ノ如ク定ムル事

分布帛尺二分ノ一 寸布帛尺十分ノ一 布帛尺一尺七寸 丈十布帛尺

第七條 米突法度量衡ハ左開ノ比較ニ依リ適當ナル法トスル事

比較表省略

第八條 度量衡器ノ種類形狀物質定限ハ左ノ如ク定ムル事

度ニ關スルモノ省略

量器中米突法ニ依ルモノヲ除キ其形狀種類ヲ擧クレハ左ノ如シ

圓 壙 形 一勺二勺五勺一合二合五合一升二升五升一斗

圓 壙形及圓錐形 一勺二合五勺一合二合五合一升

方 形 五勺一合二合五合一升二升五升一斗

長 方 形 五合七合五勺一升五合

斗概ハ木製ニシテ圓壙形大中小ノ三種ヲ用フ

〔中略〕

附則

第三十六條 本規則ハ光武九年十一月一日ヨリ施行スル事

前記度量衡規則ニ依レハ韓國ノ度量衡器ノ基本單位ハ全然我ニ一致シ其相違ノ要點ハ度ニ於テ補助尺タル布帛尺ハ我一尺七寸ニシテ鯨尺ト四寸五分ノ相違アルコト土地ノ丈量尺ニ周尺ナルモノアリ五周尺平方即我三尺三寸平方ヲ地積ノ單位トセルコト量器ノ種類多キコト衡器ニ於テ我々ニ對スルモノヲ錢ト稱シ我貫ナルモノナクシテ兩ナルモノアルコト等ナリ此等ハ貿易上格別關係ナキモノナレバ本規則ニシテ愈實施セラレ新三器ノ全國ニ普及セラル、曉ニハ彼我貿易業者ノ亨クル便益尠カラサルヘシ

第十七章 結 論

韓國商工業ノ概況上來述フル所ノ如シ視察以後月ヲ閱スルコト此ニ數月爾來益々我ニ信賴セル同國ハ多少ノ故障ヲ顧ミス斷乎トシテ我政府ノ指導誘掖ニ應シ疑ニ我ヨリ聘シタル財政顧問ノ獻策ニ基キ由來紊亂甚シキ幣制ヲ釐革スルノ勅令ヲ發シ又警察顧問ヲ入レテ該行政ノ刷新ヲ圖リ社會ノ安寧人民ノ生命財產ヲ確保セントシ或ハ最近ニ至リ通信機關ノ全部ヲ舉ケテ之ヲ我ニ委スルノ約ヲ結ヒ又第一銀行其他ニ於テ資本ヲ増シ或ハ支店ヲ増設シテ韓國一般金融ノ規模ヲ擴張セルカ如キ狀況ニ達セリ同國ハ今後仍ホ此外産業發達國力増進ニ關スル必要ノ施設ニ付我周密慎厚ノ助力ヲ俟ツモノ鮮カラス是レ着々トシテ其歩ヲ進メルヲ見ル而シテ一面彼國ノ事情ハ新聞通信ニ或ハ視察者ノ報導ニ依リ逐次精密ニ照會セラレ且ツ京釜鐵道ノ開通セラル、等移住民又ハ視察者ヲ誘フコト極メテ切ナレハ爾來渡韓スルモノ日ニ多キヲ加ヘ往航船舶ハ常ニ此等ヲ以テ滿載セラレ爲メニ京城、釜山、仁川ノ如キ開港市場ハ勿論内地ニ於テ將來有望ト認メラル、處ハ家屋ノ大缺乏ヲ告ケオレルカ如キ現象ヲ呈セリト聞ク情勢此ノ如クナレハ同國ニ於ケル今日ノ事情ハ盤日ト其趣ヲ異ニシ本紀事中ニハ聊カ相違ノ點アルヲ免レス然レトモ本書ノ要ハ韓國商工業現況ノ梗概ヲ記シ何レノ山野ニモ遺利アリ何レノ邑里ニモ我商品ヲ販售シ得ヘキモ韓國ハ總テ原始時代ニアリト極言シ得ヘキ狀況ナルヲ

以テ何レモ皆相當ノ施設ヲ爲シ幾多ノ障礙ヲ除クニ非サレハ其成果ヲ期スルコト能ハス韓國固ヨリ小弱ナリト雖トモ無人ノ境ニアラス其廣袤ハ我本島ト大差ナク是ト與ミスルニ容易ナラサル壹千萬ノ人口アルコトヲ示セルニ外ナラス若シ夫レ其詳細ニ至リテハ各自其欲スル處ニ從ヒ精査センコトヲ望ム

惟フニ現下日々千百ヲ以テ算フル渡韓者中其初ニ當リ自ラ精密ニ踏査ヲ遂ケ確固タル方針ヲ立テ彼カ産業ノ開發進步ヲ企ツルカ如キ壯圖ヲ爲ス者ナキニ非サルモ中ニハ永久ノ策ニ出テス現下ノ如キ過渡時代ニ於テ一舉暴利ヲ博セムトシ管ニ韓國民ヲ虐ケ我カ威信ヲ損スルノミナラス同胞間無謀ノ競争ヲ爲シ他外國人ヲシテ漁夫ノ利ヲ得セシムルモノナキヲ保セス  
今ヤ時局ノ進運ニヨリ兩國經濟關係ヲシテ愈密接セシムル途上ニ横ハル幾多ノ荆棘ハ必ス着々艾除セラルヘキモ此間ニ際シ國民ト國民トノ接觸ニ於テ圓滿和氣ヲ缺キ商略其當ヲ得サル處アラシカ種々ノ困難辛苦ヲ經テ漸ク今日ニ達セル各般ノ經營ハ全ク水泡ニ歸シ又如何トモスル能ハサルニ至ルヘシ故ニ世ノ韓國ニ志スモノハ須ラク先ツ彼カ風俗人情嗜好其他必要ノ事情ニ精通シ徐ニ其計ヲ定メ慎重忍耐以テ事ニ當ラムコトヲ望ムヤ切ナリ焉

韓國事情調查資料 終

31/7/10

明治三十八年七月五日印刷  
明治三十八年七月八日發行

# 農務省商工局

東京市芝區三田四國町二番地

印刷者 門岡駒太郎

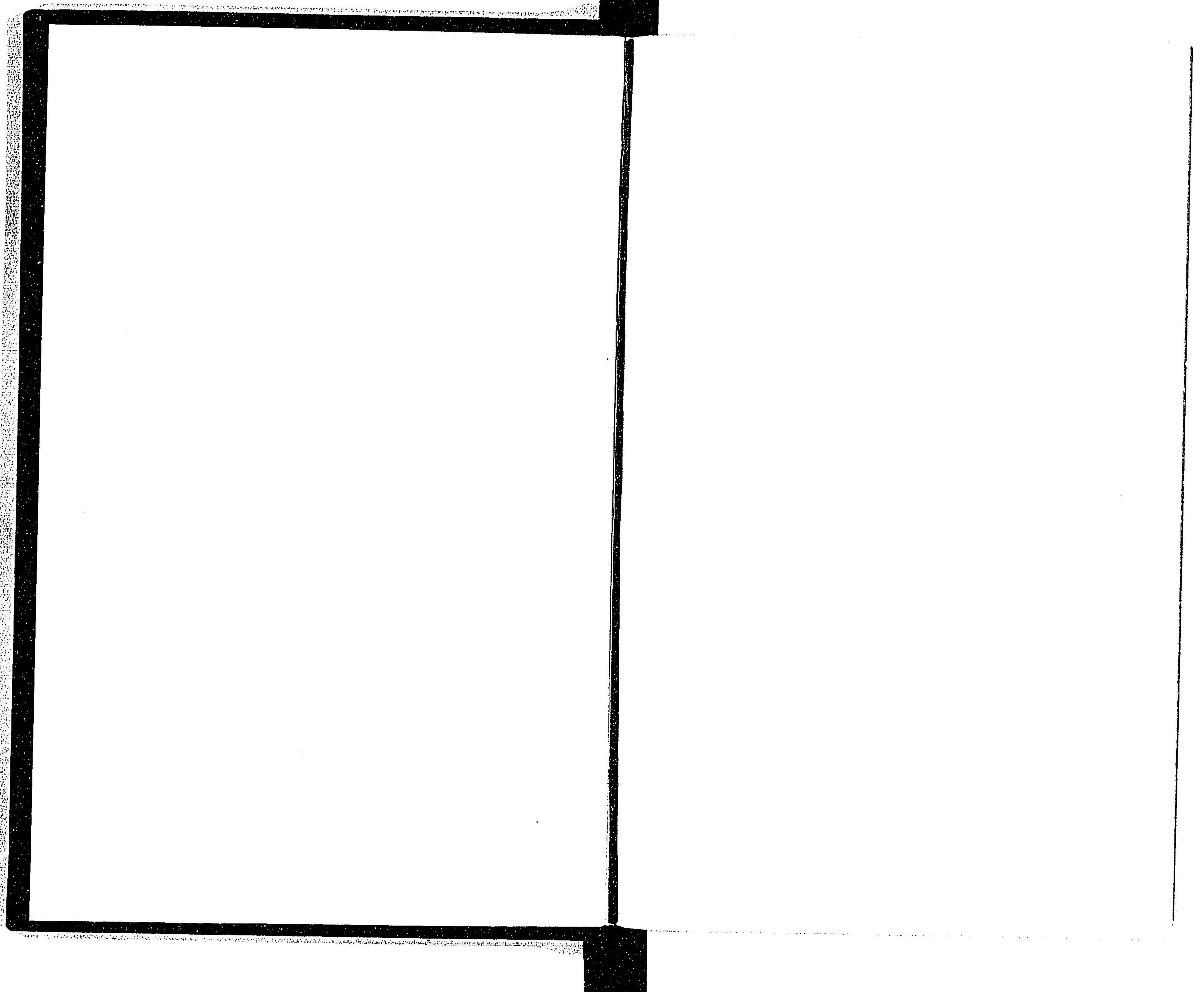
東京市芝區三田四國町二番地

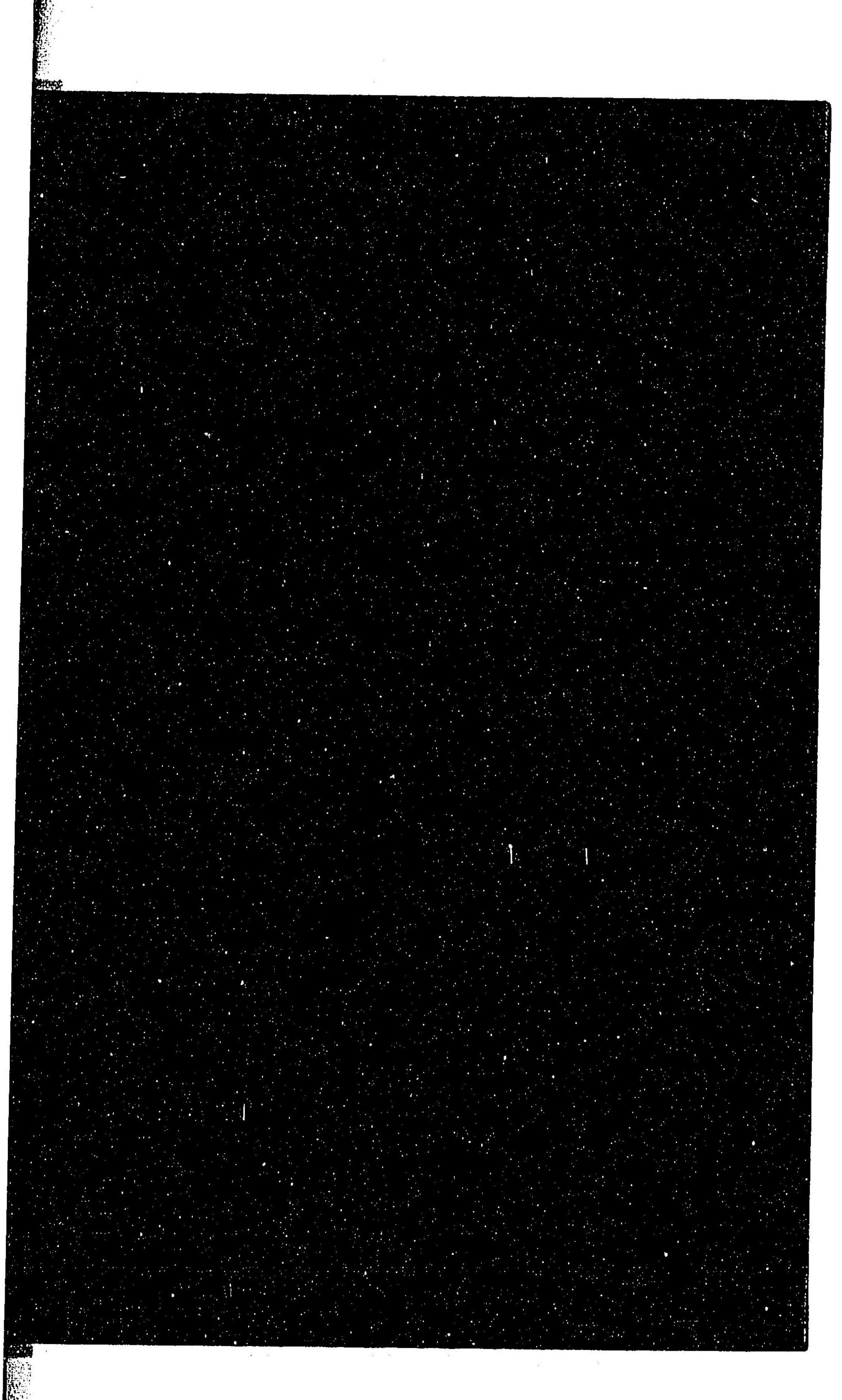
印刷所 三田印刷所

合資會社  
電話新橋一六六五

99  
110

I-4J-93





99  
110

026378-000-9

99-110

韓国事情調査資料

農商務省商工局

M38

ADD-0029



